

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	昨年5月に市に対して虐待報告事例があり、集中的に虐待研修を行なったが、今後の再発防止のためにも現在行なっている取り組みを継続する	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につて学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止する	管理者は、職員に対し虐待に関する施設内研修を定期的に行ない正しい知識と理解を深め、職員意識を高める	12ヶ月
2	6	職員一人ひとりが、「尊厳」や拘束がもたらす弊害、疾病等による行動特性を理解する	職員一人ひとりが身体拘束による身体的・精神的弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実施する	管理者は、職員に対し身体拘束に関する施設内研修を定期的に行ない正しい知識と理解を深めるとともに、3ヶ月に1回は身体拘束廃止委員会を開催し、職員意識を高める	12ヶ月
3	35	いつ災害が起きてもおかしくないという危機感を持ち、防災対策について、職員一人ひとり意識を高めて欲しい	災害時、職員一人ひとりが冷静かつ速やかに避難誘導ができるようになる	年2回の防火避難訓練と毎年10月に実施する水害避難訓練を繰り返し行うことにより、職員一人ひとりが滞りなく避難できる方法を身に付ける	12ヶ月
4	3	事業所の力を活かした地域貢献が十分にできているとは言えない	事業者は認知症カフェなどを通じ地域の方々と接し、これからも地域で安心して暮らしていける社会資源となる	認知症カフェ、北区認知症カフェ検討会参画を通し、今後も地域交流、社会貢献に努める	12ヶ月
5	13	施設外研修・勉強会等の参加率が低い	職員一人ひとりが研修・勉強会に積極的に参加し、自己研鑽によりサービスの質の向上に励む	事業所は豊富な人員配置になるようなシフトを組み、休日を利用しなくても職員が平等にキャリア等に適した研修・勉強会に参加できるよう努める	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。